

# 日刊いわくに

6月12日  
(水曜日)  
購読料  
月額1,650円  
1部90円

発行所/株式会社日刊いわくに 〒740-0012 岩国市元町三丁目6-23 電話/0827-30-1892 F A X/0827-30-1100 メール iwakuni@sky.plala.or.jp

## 墓前でファンが愛唱歌

### 教蓮寺 宇野千代しのぶ「薄桜忌」



宇野千代の墓前で千代の愛唱歌「櫻井の訣別」を歌う宇野千代ファンや顕彰会の会員(教蓮寺境内で)

岩国市出身の作家・宇野千代(1897~1996年)の命日に当たる10日、川西2丁目の菩提寺「教蓮寺」で千代をしのぶ「薄桜忌(はくおうぎ)」の法要が行われた。

今年で没後28年。本堂で藤谷英信住職(57)に合わせ読経、焼香した宇野千代顕彰会(島津教恵会長)の会員や宇野千代ファンら16人は境内にある千代の墓前に移動して線香を手向け、手を合わせた後、千代の愛唱歌で千代の葬儀でも流された「櫻井の訣別(けつべつ)」を合唱した。

千代と交流があった藤谷光信・前住職(87)が千代や千代の母との懐かしい思い出を話すうち、薄桜忌の度に姿を現す白いモンシロ



思い出を話す藤谷前住職(右)と島津会長

## 清流

戦後間もない昭和22年、一人の若き裁判官が亡くなる。33歳。佐賀県出身の山口良忠。食糧難の時代に闇市の闇米を拒否して食糧管理法に沿った配給食糧だけを口に、栄養失調のため餓死したとされる▼確かに第二次世界大戦が終わったのちの生活環境は劣悪なものだった。食糧不足だけではない。外地からの引き揚げに伴う伝染病が蔓延し、さらに厭世感からアルコーに依存したり、強盗や窃盗などの犯罪に走る者も少なくなかった。日本の食糧危機は、それまで食糧の大きな部分を占めた中国や朝鮮半島、台湾からの供給が途絶したことで、さらに農業者の激減、農機具、肥料不足、天候不順によってもた

らされた▼国民のほとんどは栄養失調状態となり、「1000万人は餓死する」とまで言われた。実際の餓死者は1000人程度だったと言われている。不幸なことだが、この数でよく踏みとどまったものだ。国民の大半は配給品の30倍の値段とも言われる闇米で食いつないだ。そんな中、闇米を取り扱っていた被告人を裁いていた山口は闇米を口にするのをやめ、配給のほとんどを子供に与え、自分は粥などをすすった▼連続テレビ小説「虎に翼」で、山口をモデルにした裁判官・花岡(岩田剛典)の餓死が描かれた。法の番人として正しくあろうとした「正直者」なのか、それとも「馬鹿者」なのか。世間では称賛と批判がうずまいた。そんな苦悩があった時代だった。